

長野県立美術館 東山魁夷館コレクション展 2024 第IV期

1990年に開館した東山魁夷館は、画家本人から寄贈された作品に加え、後に収集、寄贈された作品を含めると所蔵点数は970点あまり。2024年度も、《緑響く》や《白馬の森》、《行く秋》など本制作30点あまりを5期に分け、日本の古都を描いた京洛四季や大和春秋の連作、ヨーロッパの自然や街並みを描いた風景シリーズ、白い馬の見える風景や唐招提寺御影堂障壁画の準備作など、自然を深く見つめ、静謐な世界を表現した東山芸術の全容を、制作過程などと併せてご紹介します。



東山魁夷館 外観



東山魁夷 《白馬の森》1972年

連作「白い馬の見える風景」のうち最大の作品《白馬の森》を中心に、同連作の習作を一挙に展示します。また、冬の厳しい自然を描いた《霧氷の譜》、厳しい冬に耐える縦の若木を描いた《聖夜》などをご紹介します。

【会期】

2024年11月14日(木)～2025年2月4日(火)
※休館日＝水曜日、年末年始(12/28～1/3)

【会場】

長野県立美術館 東山魁夷館

【開館時間】

9:00～17:00(展示室入場は16:30まで)

【観覧料】(本館・東山魁夷館共通)

一般700円、大学生及び75歳以上500円、
高校生以下又は18歳未満無料

■報道関係のお問い合わせ

長野県立美術館 広報・マーケティング室 〒380-0801 長野市箱清水1-4-4(善光寺東隣)

TEL: 026-232-0052 FAX: 026-232-0050 E-mail: nam-pr@naganobunka.or.jp

関連イベント

①ギャラリートーク（担当学芸員による展示解説）

日時：2024年11月16日（土）14：00～ 会場：東山魁夷館 展示室
参加費無料（要観覧券、事前申込不要）

②東山作品の新たな楽しみ—東山魁夷愛蔵レコードを聴きながら—

日本画家・東山魁夷（1908-99）はクラシック音楽を愛好し、画室の一部にオーディオセットを設えて、作品制作中に音楽を聴くこともあったといえます。今回は2日間に限り、画家が実際に聞いたLPレコードを展示室で再生します。東山が愛したクラシック音楽を聴きながら、いつもとは少し違う作品鑑賞を楽しみませんか。



日時：2024年11月30日（土）、12月1日（日）
各日 / 10:00～、14:00～ 各回1時間程度
会場：東山魁夷館 展示室
※申込不要、出入り自由（要観覧券）

※諸般の事情により、展覧会やイベント内容などに変更が生じる場合があります。

東山魁夷館コレクション展 2024

4月11日（木）～6月18日（火）

連作「白い馬の見える風景」の起点となった代表作《緑響く》を中心に、オーストリアに取材した《沼の静寂》などを展示します。また、5月6日は東山の命日であることから、絶筆となった《夕星》を展示します。

6月20日（木）～9月3日（火）

ドイツの町に取材した《窓》、《石の窓》、《静かな町》、連作「白い馬の見える風景」から夏の景色を思わせる《水辺の朝》、《草青む》など、ヨーロッパの風景に取材した作品を中心に展示します。

9月5日（木）～11月12日（火）

東山が10年をかけて取り組んだ唐招提寺御影堂障壁画に関連した中国への取材から生まれた《瀧江暮色》、《桂林月夜》、《黄山雨過》を展示します。また、《秋思》、《木枯らし舞う》、《夕紅》など、世界各地の秋の風景を描き出した作品をご紹介します。

11月14日（木）～2025年2月4日（火）

連作「白い馬の見える風景」のうち最大の作品《白馬の森》を中心に、同連作の習作を一挙に展示します。また、冬の厳しい自然を描いた《霧氷の譜》、厳しい冬に耐える樅の若木を描いた《聖夜》などをご紹介します。

2025年2月6日（木）～4月29日（火・祝）

唐招提寺御影堂障壁画第一期で日本の自然を取材する中で生まれた《夕静寂》、長野県の厳しい冬の様相を描き出す《冬の旅》などをご紹介します。冬から暖かな春を迎える自然を描いた《春兆》などを展示します。